

茅野市の観光まちづくり × 探究交流型学習



住み続けられるまちづくり を考える

ちの観光まちづくり推進機構は

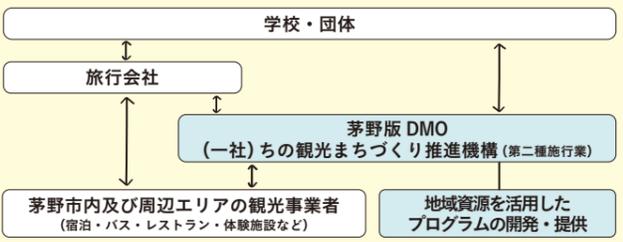
地域の魅力を伝える地域密着型の旅行会社として、地域全体を結ぶ旅をご提案します。地域発から出来ることを一緒に考え、地域と人を繋げます。私たちがつくる「ちの旅」は旅を通じて訪れる人と暮らす人を繋ぎ、この地で生きる知恵やよろこびに触れる出会いを作ります。そして、受け継がれてきた豊かな自然や人の営みがこれから 100 年先にも続いていくこと目指します。

未来に残したい地域の宝に触れる学び

私達は「観光を活用したまちづくり」によって、持続可能な地域づくりに貢献していくことを目指しています。

現在、地方には少子高齢化、担い手不足など様々な問題があります。一方で地方には季節に合わせた暮らしや、伝統的な地域の繋がりなど地域の宝が存在します。こうした未来に残したい地域の宝に触れる機会を、滞在交流プログラムとして提供し、広めていくことで地域を持続可能にしていく取り組みをしています。

私達が提案する教育旅行では、滞在交流プログラムを軸とした探究交流型学習によって、未来を担う子どもたちに残したい日本ならではの文化を伝え、学びと成長の機会をつくります。



1 ご相談・打ち合わせ (随時)

学年・予算・訪問時期・人数・日数に応じて、「地域から学ぶ」や観光施設のプログラムを組み合わせ調整し、ご提案いたします。



2 事前学習 (1カ月前～前日 / 約1時間)

学習シートや動画などを利用します。学校または宿泊施設で、ご要望に応じて対応致します。



4 ふりかえり・まとめ (当日 / 約1時間)

宿泊施設にて (夕方または夜)

ワークショップで共通の体験をもとに多様な視点・価値観を受け入れながら考え、プレゼンテーションなどの形で発表します。



学習の流れ

3 フィールドワーク (当日) 茅野市にて

各コース・小テーマに分かれて見学や体験・交流を通じて情報収集を進めながら探究活動に挑戦します。

全体 200 名様の場合の一例

| | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| バス1台 (40名) | 水の郷を巡る | バス1台 (40名) | 縄文と八ヶ岳の恵み |
| バス2台 (80名) | 温故知新 働くを考える | バス1台 (40名) | 凍みる冬に生きる工夫 |

スタッフが同行し、お手伝いすることも可能です。(要相談)



お問い合わせは (一社)ちの観光まちづくり推進機構 TEL:0266-78-7631 FAX:0266-78-7310 教育旅行担当まで メール: group@chinotabi.jp

自然 “水の郷”を巡る



茅野市は、山からの清らかな水の恵みにあふれた場所。その恵みを利用して暮らすためには、昔の人たちの知恵と工夫がありました。美しい景観をつくる蓼科湖や御射鹿池は、実は冷たすぎる山の水をお日様に当てて暖めて使うための「農業用温水ため池」。里に涼やかな水音を響かせる澄んだ水の流れは、この地域で「堰(せぎ)」と呼ばれる人工の用水路。

〈1日の流れ〉
まず総合博物館にて、江戸時代に大規模な堰をつくった偉人、坂本養川さんの話を聞き、茅野市での水の利用と工夫の歴史を学びます。実際に蓼科湖から流れる堰沿いの道を歩き、堰の水を利用した小水力発電所を見学。さらには「絶景スポット」御射鹿池で、池の水を利用した農業をして暮らす笹原地区のガイドの方に、水の大切さと工夫、守ってきた歴史などを教わりながら、今も昔ながらの景観が残る「水の郷」笹原を案内していただきます。

行程 茅野市内ホテル⇒茅野市八ヶ岳総合博物館⇒蓼科湖・・・蓼科第三発電所・・・尖石縄文考古館⇒御射鹿池⇒笹原ため池⇒笹原⇒茅野市内ホテル

マークの説明：⇒バス / ... 徒歩

文化 “働く”を考える

冬の高原地帯の寒気を利用した天然角寒天づくりは、長野県を代表とする江戸時代からの地場産業。そして、豊富な水と澄んだ空気は精密機械に適した地域柄、精密機械工業が発展しました。「信州鋸」は江戸時代、諏訪・高島藩が、江戸で有名だったのこぎり職人を諏訪へ招いたのがきっかけで、作られるようになり明治に入り信州鋸は茅野市で発展しました。

〈1日の流れ〉
この土地ならではの条件を生かして定着した産業と働くこと人に焦点をあて、地域で働くこと、そしてものづくりをテーマに大人の働く姿勢を追います。棒寒天の生産現場では、伝統を守るために挑戦し続けるイリセンの茅野社長からの話と見学を。そして高度な加工技術を擁して私たちの暮らしを支える精密機器工場を訪れ、モノづくりへのこだわりを感じます。そして、最後の鋸職人として、『あなたのこぎりで仕事がしたいんだ』と言ってくださる人のために信州の名工として信州のこぎりを作り続ける両角さんのお話を聞きます。



行程 茅野市内ホテル⇒茅野市内の企業⇒棒寒天生産工場(イリセン)⇒会場にて・信州鋸職人の話

歴史 縄文と八ヶ岳の恵み



二つの国宝を生んだ茅野市の縄文時代は、どんなものだったのでしょうか。当時この地が大きく栄えた理由、それには八ヶ岳の生んだ自然の恵みが欠かせません。それらは5,000年経った今でも、私たちに恵みをもたらしてくれています。

〈1日の流れ〉
絶景スポット「御射鹿池」をスタート地点として、今も利用されている「自然の恵み」とそのための工夫を学びます。縄文時代の村の様子が復元されている遺跡では、水や木の実のほか、大切な食料となった鹿などの獣が縄文時代の人々の暮らしを支えてきたことを実感します。諏訪大社の狩猟神事を再現した「神長官守矢史料館」では、特に鹿とそれを獲る狩猟が、その後もこの地で大切にされてきたことを教えてもらいます。最後に実際に猟師として生活している方が営むレストランで、茅野市で獲れた鹿を食すことで、「命をいただき、食べる」という人間本来の生き方に思いを馳せます。

行程 茅野市内ホテル⇒御射鹿池⇒尖石縄文考古館・・・与助尾根遺跡(縄文時代の復元住居)⇒茅野市神長官守矢資料館⇒鹿肉を扱うレストラン⇒茅野市内ホテル

食 凍みる冬に生きる工夫

全地域が標高 700m を超える茅野市。氷点下 15 度を下回ることもあり、土の深くまで凍てつく「凍みる」冬。茅野に住む人々は、様々な知恵と工夫でこの厳しい冬を乗り越えてきました。

〈1日の流れ〉
まず博物館で茅野市の冬の暮らしと、冬の仕事として発展した「寒天」や「信州のこぎり」といった文化を学びます。その後、山に近い集落で、気候を生かしてつくる冬の保存食、「凍み」の食材を使った郷土料理を地元のおばあちゃんたちと一緒に食べて食卓を囲みます。午後には農家さんたちが冬の手仕事をおこなう茅葺きの建物「穴倉」をのぞいたり、この道 60 年ののこぎり職人さんの技術を見学したりして、「今も生きる茅野の文化」を目の当たりにします。先人の知恵と努力に感動する一日です。



行程 茅野市内ホテル⇒八ヶ岳総合博物館⇒郷土料理体験⇒泉野穴倉⇒会場にて・信州鋸職人の話